

### 令和7年産稲作情報

#### ■宮城県

5/8 田植進捗状況  
県全体 24.5%  
田植始期5/5で平年より1日、前年より2日遅い。  
平年～田植始期 5/4, 盛期5/11, 終期5/22

#### ■岩手県

5/12 田植進捗状況  
県全体 23%  
地域別  
北上川上流 2%(始期 5/15、盛期 5/20、終期5/26)  
北上川下流 32%(5/9, 5/15, 5/22)  
東部 25%(5/11, 5/16, 5/23)  
北部 0%(5/18, 5/23, 5/28)

#### ■秋田県

5/10 田植進捗状況  
県全体 2.5%  
県北部 0.2% 県中央部 6.6% 県南部 0.2%  
最盛期は 5/23頃



### 今週の玄米入荷情報

#### 令和6年産

入荷が不安定なため

しばらくの間、入荷情報は  
お休みさせていただきます。

### 2025年 カメムシの発生が多い年も！！

やっと、収穫できたと思ったらカメムシ被害で品質が落ちてしまうのは残念です。

#### カメムシの発生を予測する3つのポイント

- ①冬の気温(暖冬かどうか)  
冬の気温が高いと多くの個体が生き残り春に大量発生しやすい②スギ・ヒノキの実の量(食料がの多さ)  
カメムシの主な餌はスギ・ヒノキの実。その為、実が豊作の年はカメムシの数も増える
- ③天気(降水量・台風の影響)  
カメムシは変温動物の為、気温が高いと成長スピードが高まり年内の発生量も増加、台風や大雨が多いと数が減る傾向がある

#### 大量発生の可能性が高い要因

- ・2025年春のスギ・ヒノキの花粉飛散量が多い(特に西日本で例年の2倍以上)
- ・2025年1月の日照時間が全国的に多く、カメムシが越冬しやすい環境だった
- ・長期的な温暖化の影響で、カメムシの生息環境が安定している

#### 発生が抑えられる可能性がある要因

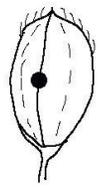
- ・2025年2月の気温が低くなれば、減る可能性がある
- ・2025年の天気が大雨や台風が多い場合、減る可能性がある

これからの動向は見逃せないですね！

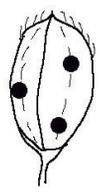
### ■斑点米における黒変はカメムシの吸汁加害で生じた傷口から細菌類が侵入して変色したもの



頂部加害型  
内外穎の頂部の隙間や組織の柔らかい「ふ先」から口針を挿入して吸汁するため子実粒先端に被害が現れます。また、くさびを生じることもあります。  
加害は登熟期初期に多い。



側部加害型  
籾の内外穎の縫合部の隙間から口針を挿入して吸汁するため側部に被害が現れます。  
加害は割れ籾で登熟期後半に多い。



無差別加害型  
口器が強い大型のカメムシ類は内外穎のどの部分からでも穎を貫通して吸汁するため、子実粒のいたるところに被害が現れます。  
加害期間は長く、収穫直前まで続くこともあります。